

韓国「独自 AI 基盤モデル」プロジェクト第 2 次評価

全点数公開の経緯・評価構造の分析と日本への示唆

2026 年 9 月 1 日作成

Claude Opus 5

1. 要旨

韓国科学技術情報通信部（MSIT）は 2026 年 8 月 27 日夜、「独自 AI 基盤モデル（독자 AI 파운데이션 모델、略称「독파모」）」プロジェクト第 2 次段階評価について、参加全社・全項目のスコアを公開した。総合 1 位は SK テレコム の 70.6 点、以下 Upstage 69.9 点、LG AI 研究院 69.0 点、Motif Technologies 65.8 点であった^[3,4]。KOREA WAVE 記事の骨子はこの点で事実と確認できる^[1,2]。

ただし記事および一般的理解にある「参加 5 チーム」という前提には注意を要する。2 次評価時点の参加は 4 チームであり、NAVER Cloud と NC AI は 2026 年 1 月の 1 次評価で既に脱落している^[11]。全点数の公開は、国際ベンチマーク指標で参加社中 1 位でありながら脱落した Motif が異議を申し立てたことを受けた異例の措置であった^[5,6]。

本件の要諦は順位そのものよりも、①性能ベンチマーク 1 位が総合では最下位となる評価設計、②政府が企業別スコアを全面公開した透明性圧力の帰結、③韓国政府自身が「順次脱落型・資源分散型」の限界を認め 2027 年以降の全面再編を表明した点、の三点にある。

2. 事実確認

2.1 実施主体と時系列

事業主体は科学技術情報通信部（MSIT）であり、運営実務は情報通信産業振興院（NIPA）、韓国知能情報社会振興院（NIA）、情報通信企画評価院（IITP）、韓国情報通信技術協会（TTA）が分担する^[13]。

- 2026 年 8 月 18 日：MSIT リュ・ジェミョン第 2 次官が政府ソウル庁舎でブリーフィング。Upstage・SKT・LG の 3 チーム通過と Motif 脱落のみを発表し、点数・順位は「企業への不利益（スティグマ効果）」を理由に非公開とした^[7,12]。
- 2026 年 8 月 20 日：項目別 1 位企業とその点数のみを追加公開。しかし論争は収束せず^[10]。
- 2026 年 8 月 26 日：Motif が異議を申し立て、詳細スコアの公開と再審議を要求^[6]。
- 2026 年 8 月 27 日午後 8 時頃：他チームの同意を得たうえで、MSIT が報道参考資料により全点数を公開^[5]。

公開の時刻および経緯は複数の韓国語報道で相互に一致しており、確度は高いと判断する。ただし 8 月 27 日付 MSIT 報道参考資料そのものの PDF 掲載 URL は今回特定できておらず、数値は報道経由での確認である点を留保する（後記 7.2 および参考文献 [16] 参照）。

3. 公開された全スコア

3.1 評価構造

配点 100 点は三軸で構成される^[9]。

- ベンチマーク評価 40 点：Artificial Analysis Intelligence Index (AAII) 25 点 + NIA 独自評価 15 点。
- 専門家評価 35 点：産・学・研の外部専門家 10 名からなる専門家委員会による評価。
- ユーザー評価 25 点：AI 専門ユーザー評価 15 点（AI スタートアップ代表等 49 名）＋一般国民評価 10 点（性別・年齢別クォータで選定された評価団のうち 185 名が実参加）。1 次評価と異なり一般国民が参加した点が特徴。

AAII はエージェント・コーディング・推論など 9 つの国際ベンチマークを統合した指標で、エージェント分野（GDPval-AA v2、 τ 3-Banking 等）の比重が 34% と最大である。NIA 評価は数学・知識・長文理解・安全性・信頼性・韓国語・指示遂行の 7 分野からなる^[4]。

表 1 第 2 次段階評価 全項目スコア（★＝当該項目 1 位、①～④＝総合順位）

評価項目（配点）	SKT	Upstage	LG	Motif	4 社平均
AAII (25)	8.8	9.4	7.8	11.9 ★	9.48
NIA (15)	13.4 ★	13.3	12.8	12.7	13.05

評価項目（配点）	SKT	Upstage	LG	Motif	4社平均
ベンチマーク計（40）	22.2	22.7	20.6	24.6 ★	22.50
専門家評価（35）	29.3	29.1	29.5 ★	27.1	28.75
AI 専門ユーザー（15）	11.6 ★	10.8	11.3	8.4	10.53
一般国民（10）	7.5	7.3	7.6 ★	5.7	7.03
ユーザー評価計（25）	19.1 ★	18.1	18.9	14.1	17.60
総合（100）	70.6 ①	69.9 ②	69.0 ③	65.8 ④	—

出典：[3] [4] に基づき作成。数値は報道により相互確認したもので、MSIT 一次資料の直接確認は未了（後記 7.2）。

3.2 結果の構造分析

決定的だったのはユーザー評価である。Motif はベンチマーク計 24.6 点で 1 位、SK テレコムは 22.2 点で 3 位であったにもかかわらず、ユーザー評価計で SK テレコム 19.1 点対 Motif 14.1 点と 5.0 点差がつき、総合順位が逆転した^[4]。

総合 1 位と 4 位の差を項目別に分解すると、ベンチマーク 4.0 点、専門家評価 2.4 点、ユーザー評価 5.0 点であり、ユーザー評価の寄与が最大である。これは「技術的性能」ではなく「実用性・受容性」を重く見る設計が意図的に働いた結果と解される（以下、本段落は分析）。上位 3 社の総合点差はわずか 1.6 点であり、順位は僅差の上に成立している点も留意を要する。

4. プロジェクトの枠組み

국산 AI 是李在明政権の「AI3 大強国跳躍」公約の中核事業であり、海外 AI モデルへの依存に伴う技術・文化・経済・安保上のリスク解消を目的とする。目標水準は最新グローバルモデル比 95%以上の性能とされる^[13]。

4.1 選抜方式

2025 年 7 月の公募には 15 チームが応募し、書面評価で 10 チーム、発表評価を経て同年 8 月に 5 チーム（NAVER Cloud、Upstage、SK テレコム、NC AI、LG AI 研究院）が選定された。カカオはこの段階で脱落している^[13]。

制度設計は「当初 5 チーム→段階評価で最終 2 チーム」という順次脱落型（サバイバル）であり、6 か月ごとに開発目標を変える「ムービングターゲット」方式で運営される。2026 年 1 月 15 日の 1 次評価では、NAVER Cloud が「フルスクラッチ（独自開発）」要件未達、NC AI

が点数未達で脱落し、当初 1 チーム脱落予定が 2 チーム脱落となった。MSIT は 1 チームの追加公募（敗者復活戦）を実施したが、NAVER・NC AI・カカオはいずれも再挑戦を辞退し、Motif Technologies が合流して 2 次評価は 4 チームで実施された^[11,13]。

4.2 予算と支援内容

総予算は「2027 年まで 5,300 億ウォン規模」（GPU 賃借・購入、著作物データ共同購入、海外研究者誘致費マッチング等）と報じられる一方、1 次発表会時点では「総予算 2,136 億ウォン」との報道もあり、両者の切り分けを確定できる一次資料は今回確認できていない。前者が事業全体、後者が初期計上分である可能性が高いが推測にとどまる。

3 次進出 3 チームには NVIDIA B200 が上期 768 枚から下期 1,000 枚水準へ拡大配分される計画で、3 チーム合計のインフラ費用は約 1,200 億ウォン規模とされる^[13]。3 次評価は 2026 年末、最終 2 チームの発表は 2027 年初の予定であるが、後記 5.3 のとおり枠組み自体の変更が示唆されており、いずれも変動前提で捉えるべきである。

5. 各チームのモデルと評価をめぐる論争

5.1 技術的特徴

2 次評価の技術的争点は「数百億パラメータ規模の知能を維持しつつ、いかに演算効率を高めるか」であり、4 社とも MoE（Mixture of Experts）構造を採用した^[4]。

表 2 第 2 次評価提出モデルの概要

	SK テレコム	Upstage	LG AI 研究院	Motif
モデル名	A.X K2	Solar Open 2	K-EXAONE 2.0	Motif 3
総パラメータ	688B	250B	750B	314B
活性パラメータ	33B	15B	37B	約 13B
構造	希薄 MoE + 独自 SGA	MoE	MoE	独自設計 MoE
特徴	数学・韓国語に強み AIME 2026 で 97.1%	最大 100 万トークン H200 2 枚で駆動	10 言語対応 約 26 万トークン	約 5 か月でフル スクラッチ開発
AAII	35	37	31	47（4 社中 1 位）
公開	HF で公開 派生 3 モデルも	HF で重み・技術 レポート全面公開	—	HF でモデル・ 学習コード公開

出典：[3] [4] [13] に基づき作成。Motif の活性パラメータは報道により「13.2 億」「13.2B」の両表記があり、技術的整合性から後者（約 132 億）と解した（推定）。

専門家委員会は、Upstage のポータル「Daum」連携および FuriosaAI（国産 NPU）実証、SK テレコムの数理推論・韓国語性能と商用サービス実績、LG の国際機関協業戦略とエージェンティック AI 能力を高く評価したと報じられている^[4,9]。

4 社の提出モデルはいずれも Epoch AI の「Notable AI Models」に登載され、AAII で全社 31 点以上を記録した。MSIT は、Epoch AI が 2026 年に選定した Notable モデルの保有国が米・中・韓の 3 か国のみである点を成果として強調している^[12]（ただしこの評価枠組み自体の妥当性は別途の検討を要する）。

5.2 評価方法をめぐる論争

Motif は、AAII で 47 点对 31 点という性能差が最終配点では 4 点差に圧縮され、定量的な技術格差が結果に反映されない構造だと批判した^[6]。同社は 3 次への不参加を宣言し、政府支援によらず独自にフロンティアモデル開発を進める方針を表明している^[5,6]。

専門家からは、AAII 最下位の LG が専門家評価で 1 位となった結果について「誰がどの基準で評価したのかを公開すべきだ」との指摘が出た。評価基準が段階ごとに変わる「ムービングターゲット」方式そのものへの不信も示されている^[10]。

また、米 AfterQuery 等が ICML 2026 の場で ԵԿԴԵ 参加企業に接触したとされる「ベンチマクシング（benchmaxxing、ベンチマーク過剰最適化）」疑惑が浮上した。4 社はいずれも否定し、MSIT が評価機関 Artificial Analysis に検証を依頼した結果、暗記や特定指標への過剰最適化の痕跡は確認されなかったと発表している^[10,13]。

5.3 政策的文脈と枠組みの再編示唆

リュ・ジェミョン第 2 次官は、「今のように LG か SK か Upstage かではなく、完全に新しい主体と枠組みを作る案まで含めて予算当局・業界と協議中」と述べ、ԵԿԴԵ の枠組み自体の抜本的再設計を示唆した^[10,13]。米中フロンティアモデルの進化が予想を超え、資源分散型では追従できないとの認識を業界・学界と共有していると説明している。

2027 年予算案では、ԵԿԴԵ を含む「最上位級独自 AI モデル確保」に 5 兆 5,937 億ウォン、GPU（ベラルビン級約 1 万枚）確保予算、「모두의 AI（みんなの AI）」に 2,500 億ウォンが計上されたと報じられる^[13]。李在明政権は最先端 GPU 5 万枚の確保を公約しており、資源集中への政策転換と整合的である（分析）。

6. 日本への示唆

6.1 GENIAC との制度設計の対比

日本の GENIAC（経済産業省・NEDO、2024 年 2 月開始）は、計算資源提供・データ実証・マッチング・コミュニティ形成の四本柱により、第 1 期から第 3 期までの公募総額 339 億円で延べ 30 件を採択する「広く薄く多数」型の非競争的支援である。第 4 期は 2026 年 6 月 4 日に AI 基盤モデル 16 件が採択された^[14]。

すなわち韓国は「少数を競わせ段階的に脱落させ、点数まで公開する」方式、日本は「多数を採択し順位を公開しない」方式であり、設計思想が対照的である。韓国方式は資源集中と透明性の点で優れる一方、脱落企業へのスティグマ、評価基準の恣意性への疑義、政策一貫性への不信という副作用を現に生じさせた（分析）。

日本側も方針転換の途上にある。経済産業省 AI 産業戦略室の渡辺琢也室長は 2026 年 6 月 4 日の第 4 期キックオフで、日本が汎用的な AI モデルで独自性を出すことは難しく、インターネット上のデータではなく日本が強みを持つ現場のデータを取り込むことが重要である旨を述べており、汎用スケール競争からドメイン特化へと軸足が移りつつある^[14]。

6.2 経済安全保障上の含意

経済産業省「デジタル経済レポート」（2025 年 4 月 30 日）は、標準シナリオで純粋なデジタル赤字が 2035 年に約 18 兆円、悲観シナリオで約 28 兆円、製造業の「隠れデジタル赤字」まで含めると最大 45 兆 3,000 億円に拡大しうると分析している^[15]。デジタル赤字は既に約 6.7 兆円規模に達し、インバウンド黒字をほぼ相殺している。

この文脈では、日本の比較優位（IOWN に代表される低遅延インフラ、厳格な著作権・個人情報法制、自動車・ロボティクス・ヘルスケア等の垂直領域）を軸に、汎用モデルの規模競争ではなく「安全な AI 活用基盤の提供者」に特化する戦略が現実的と考えられる（分析）。知財実務の観点からは、フルスクラッチ開発への固執よりも、オープンウェイト活用＋事後学習＋ドメイン特化という構成において、学習データの権利処理・モデル重みのライセンス設計・成果物の権利帰属をどう設計するかが実務上の焦点となる。

6.3 制度設計上の具体的示唆

- 評価に「実用性・活用性」軸を導入する場合、韓国の失敗（ベンチマーク 1 位が脱落し異議と不信を招いた）を反面教師とし、評価基準・評価者構成・配点換算式を事前に固定・公開することが、スティグマと紛争のリスクを低減する。

- 段階ごとに基準を変える「ムービングターゲット」方式は、開発の柔軟性を確保する一方で透明性と予見可能性を著しく損なうため、採用には慎重であるべきである。
- 注視すべき指標は、韓国最終 2 チームがグローバルフロンティア比 95%という性能目標を達成できるか否かである。達成すれば競争集中方式の有効性が、未達であれば方式自体の限界が示される。

7. 留意事項（確度と未確認事項）

7.1 事実・分析の区別

本報告のうち、第 2 節から第 5.2 節までは韓国語報道および政策ブリーフィングにより確認した事実の整理である。第 3.2 節後段、第 5.3 節後段、第 6 節の評価・示唆部分は筆者による分析・推測であり、事実の記述ではない。

7.2 確認できなかった事項

- MSIT 一次資料：総合点・全項目スコアの数値は連合ニュース系を含む複数報道で相互確認済みで確度は高いが、2026 年 8 月 27 日付 MSIT 報道参考資料の原文 PDF 掲載 URL は特定できなかった。korea.kr で確認できた一次資料 [12] は 8 月 18~19 日のブリーフィング分であり、詳細点数を含まない。
- 予算数値：総額「5,300 億ウォン」と「2,136 億ウォン」の両報道が併存し、切り分けを確定する一次資料は未確認。
- Motif の活性パラメータ：「13.2 億」との表記と「13.2B（約 132 億）」と読める資料が併存する。なお arXiv 掲載の Motif-2-12.7B は 12.7B 級の別系統モデルであり、岳斗豆提出の Motif 3（314B MoE）との関係は未確認である。
- GENIAC 公募総額 339 億円は二次資料に基づく数値であり、経済産業省一次資料での直接確認は未実施。参考文献 [14] [15] の URL も今回特定できていない。
- 今後の予定：3 次評価の日程・配点は未確定である。MSIT は最終 2 チーム選定という目標自体が変わりうると明言しており、「2027 年初発表」「B200 1,000 枚」等はいずれも現時点の計画にすぎず、予算確定後に変更されうる。

参考文献

本文中の〔 〕内の番号は下記に対応する。URL は最終アクセス 2026 年 9 月 1 日。確認状況欄に一次資料性および確認可否を付記した。

- [1] KOREA WAVE 「韓国政府、「独自 AI 基盤モデル」2 次評価の全点数公開…総合 1 位は SK テレコム」Yahoo!ニュース、2026 年 8 月 28 日配信。

URL : <https://news.yahoo.co.jp/articles/5ab59f2485118c999dcef6460965197cc1cf58af>

確認状況：検索結果により内容確認。robots 制限により本文の直接取得は不可。

- [2] AFPBB News (KOREA WAVE 転載)、2026 年 8 月。

URL : <https://www.afpbb.com/articles/-/3650569>

確認状況：同一内容の転載を確認。

- [3] ニュースウェイ (뉴스웨이) 「과기부, 독파모 2 차 평가 점수 공개…SKT 70.6 점 1 위」2026 年 8 月 27 日。

URL : <https://www.newsway.co.kr/news/view?ud=2026082721023778305>

確認状況：総合点・順位の確認に使用。

- [4] ワウテイル (와우테일) 「'독파모' 2 차 평가 세부 결과 공개…SKT 종합 1 위·벤치마크는 모티프 1 위」2026 年 8 月 28 日。

URL : <https://wowtale.net/2026/08/28/263583/>

確認状況：項目別スコアの内訳の確認に使用。

- [5] マネートゥ데이 (머니투데이) 「'독파모 탈락' 모티프 이의신청에 정부, 2 차 점수 전체 공개」2026 年 8 月 27 日。

URL : <https://www.mt.co.kr/tech/2026/08/27/2026082720014296593>

確認状況：点数公開の経緯・時刻の確認に使用。

- [6] ヘラルド経済 (헤럴드경제) 「독파모 탈락한 모티프, 이의신청 제기…"평가 점수 상세 공개, 재심의 요청"」2026 年 8 月 26-27 日。

URL : <https://biz.heraldcorp.com/article/10853666>

確認状況：Motif の異議申立内容の確認に使用。

- [7] ファイナンシャルニュース (파이낸셜뉴스) 「'독자 AI' 2 차 평가, SK·LG·업스테이지 통과…모티프 탈락」2026 年 8 月 18 日。

URL : <https://www.fnnews.com/news/202608181111487214>

確認状況：2 次評価の一次発表（8 月 18 日）の確認に使用。

- [8] アイティデイリー (아이티데일리) 「독파모 2 차 평가 '업스테이지·SKT·LG' 3 강 확정…모티프 탈락」2026 年 8 月。

URL : <https://www.itdaily.kr/news/articleView.html?idxno=241048>

確認状況：通過 3 チーム確定の確認に使用。

- [9] The PR (더피알) 「'국가대표 AI' 2 차 평가 SKT·LG·업스테이지 통과…모티프 탈락」2026 年 8 月。

URL : <https://www.the-pr.co.kr/news/articleView.html?idxno=62306>

確認状況：評価 3 軸の配点構成の確認に使用。

- [10] エフトゥ데이 (에프투데이) 「"최종 총점·순위 비공개"…독파모 2 차 후폭풍, 투명성 논란 지속」2026 年 8 月。

URL : <https://www.ftoday.co.kr/news/articleView.html?idxno=363993>

確認状況：非公開方針と透明性論争の確認に使用。

- [11] ZDNet Korea 「'독파모' 1 차서 네이버·NC AI 동반 탈락…정부, 정예팀 1 곳 추가 공모」 2026 年 1 月 15 日。

URL : <https://zdnet.co.kr/view/?no=20260115150326>

確認状況：1 次評価での 2 チーム脱落と追加公募の確認に使用。

- [12] 大韓民国政策ブリーフィング (korea.kr) 「독자 AI 파운데이션모델 프로젝트 2 차 단계평가 결과」 (科学技術情報通信部) news ID 156774781、2026 年 8 月 18-19 日。

URL : <https://www.korea.kr/briefing/policyBriefingView.do?newsId=156774781>

確認状況：一次資料。速記資料添付。ただし詳細点数は含まれない (8 月 18 日ブリーフィング分)。

- [13] ナムウィキ (나무위키) 「국가대표 AI」項。

URL : <https://namu.wiki/w/%EA%B5%AD%EA%B0%80%EB%8C%80%ED%91%9C%20AI>

確認状況：事業経緯・選定タイムラインの参照に使用。二次的な集約情報のため、他ソースとの照合を前提とする。

- [14] 経済産業省「GENIAC 第 4 期 採択事業者の決定について」 2026 年 6 月 4 日。

URL : [meti.go.jp](https://www.meti.go.jp) (正確な URL は未確認)

確認状況：採択 16 件の内容は報道等で確認。一次資料 URL は今回特定できず。

- [15] 経済産業省 商務情報政策局情報経済課「デジタル経済レポート」 2025 年 4 月 30 日公表。

URL : [meti.go.jp](https://www.meti.go.jp) (正確な URL は未確認)

確認状況：デジタル赤字の将来推計 (2035 年に 18 兆~28 兆円、最大 45.3 兆円) の出典。

- [16] 科学技術情報通信部「独自 AI 基盤モデルプロジェクト 2 次段階評価 詳細結果 (報道参考資料)」 2026 年 8 月 27 日。

URL : 未確認 (一次資料 PDF の URL を特定できず)

確認状況：全項目スコアの一次資料。本報告の数値は上記 [3] [4] 等の報道により相互確認したもの。